

# HISTORY

1891年の創立、  
進化の歴史を刻んだ119年

1891

- 徳川育英会を母体に実学を重んじた「育英農業科」誕生、生みの親・榎本武揚 東京農大の原点「育英農業科」生みの親は、通信・文部・外務農商務の大臣などを歴任した徳川育英会長の榎本武揚であった。



創設者 榎本武揚

1893

- 東京農学校と改称

1894

- 建学理念は実学主義、育ての親・横井時敬 近代農学の始祖・横井時敬が評議員として経営に参画。1911年に私立東京農業大学初代校長に就任。実学を重視する教育理念を掲げた。建学理念は「人間を人に還す」。



初代学長 横井時敬

1897

- 大日本農会に経営移管

1925

- 大学令による東京農業大学の設立 財団法人東京農業大学が誕生する。

1946

- 渋谷常盤松から世田谷キャンパスに移転

1947

- 民主教育のスタート

1949年の学校教育法、私立学校法により東京農業大学となる。農学部に農学科、林学科、畜産学科、農芸（業）化学科、農業工学科、農業経済学科、緑地学科、協同組合学科を擁していた。

1950

- 東京農業大学短期大学を併設

1953

- 大学院に農学研究科を設置

1960

- 実習を重視する教育理念の創造

厚木農場（現厚木キャンパス）の誕生。さらに二宮柑橘園、富士畜産農場、網走寒冷地農場、宮古亞熱帯農場をはじめ多数の農場、演習林を整備し、実習を重視した教育体制を整備した。

1966

- 国際化への第一歩

アメリカ・ミシガン州立大学と姉妹大学提携、国際化への第一歩を記した。姉妹大学は1国1大学方式で20カ国20大学にまで発展している。

1978

- 国際的な学術交流の展開 国際交流センター（現国際協力センター）を設置。

1989

- オホーツク生物産業学部が誕生 生物生産学科・食品科学科・産業経営学科を擁す。

1991

- 創立100周年

1993

- 大学院に生物産業学研究科を設置

1998

- 厚木キャンパスが誕生 6学部19学科体制がスタート 食料・環境・健康・資源エネルギーの課題に取り組むため、従来の農学部を発展的に解消し、農学部・応用生物科学部・地域環境科学部・国際食料情報学部・生物産業学部・短期大学部の6学部19学科体制を整備。

1998

- ハイテクリサーチセンター設置

1999

- 学術フロンティア共同研究推進センター設置

2001

- オープンリサーチセンター設置

2001

- 創立110周年を迎える

第1回 TOKYO NODAI COMING DAYを開催。

2002

- ISO14001認証取得

2004

- 東京農業大学「食と農」の博物館開館

2006

- 農学部にバイオセラピー学科・生物産業学部にアクアバイオ学科を開設

東京農大桜丘アリーナ竣工

東京農業大学は大学基準協会から大学基準への適合認定を受けた

東京農業大学短期大学部は短期大学基準協会から短期大学評価基準を充たし適格と認められた

## ACCESS

世田谷キャンパス 世田谷区桜丘1-1-1

